

献辞

松元宏教授は、2004年3月末日をもって横浜国立大学経済学部を退官されました。ここに『エコノミア』第55巻1号を先生に捧げ、本学部への長年に渡るご貢献に対して厚く感謝申し上げます。

松元先生は、1964年3月に一橋大学経済学部をご卒業後、同大学大学院経済学研究科に進学し、日本経済史を専攻され、1967年3月同研究科修士課程修了、1970年3月同研究科博士課程単位取得退学されました。そして1974年本学経済学部日本経済史担当の助教授として着任され、1981年4月からは教授に昇任されました。また、1994年4月から発足した本学大学院国際開発研究科博士課程後期においては日本経済発展論を担当され、その後1999年4月に同研究科が拡充改組された国際社会科学研究科の創設にも参加されました。この間、松元先生は深い学識と豊富な経験により、学部学生と大学院生の教育、研究指導にあたり、多数の優れた人材を世に送り出してられました。

研究活動の面では、大学院時代より一貫して戦前期の日本資本主義研究を追求し続け、近代日本経済史の分野で優れた研究成果を多数生み出されました。特に財閥史研究の分野で重要な貢献をされ、なかでも単著『三井財閥の研究』（吉川弘文館、1979年）は、三井文庫に所蔵されている膨大な一次資料を駆使した労作であり、三井財閥に関する本格的でパイオニア的な研究として、現在に至るまでも財閥史研究の重要な礎となっています。また、戦前期の地主経営を対象とした共同研究では、山梨県の200町歩地主の経営を詳細に分析され（永原慶二・中村政則・松元宏・西田美昭共著『日本地主制の構成と段階』東京大学出版会、1972年）、資本主義の展開との関連で地主制の実証的研究にとりくむなど、戦前期資本主義の構造的特質の解明に重層的な厚みを与えるものになっています。

また、松元先生は、幕末維新期における静岡県から山梨県にかけての近江商人の経済的活動を丹念に調査しながら、地域における商業資本の歴史的意義について実証的に検討したり、横浜国立大学付属図書館に所蔵されているシャウプ税制に関する資料により、財閥解体を含む占領期改革の検討もなされており、幕末期から占領期に至る戦前日本資本主義の成立から没落までを解明しようという強い問題関心と情熱を持ち続け、研究の個別分散化が進む中、全体像を追求する松元先生の姿勢は、日本経済史研究に大きな影響を与えてきました。

学会活動という面では、政治経済学・経済史学会（旧土地制度史学会）、社会経済史学会、歴史学研究会等で活躍され、その広い研究業績から政治経済学・経済史学会理事や監事も務められ、また静岡県小山町史編纂事業委員、神奈川県大磯町史編集委員等、地方自治体の歴史編纂にも貢献されました。

さらに、大学の管理運営面においても多方面でご活躍されました。1990年4月から1992年3月まで経済学部附属貿易文献資料センター長を務められた後、1994年4月より1996年3月まで経済学部長として、学部学科改組・大学院重点化や修士課程における英語コースの開設などに積極的な役割を果たされました。また、1998年4月から1999年3月までは学生部長、同年4月から2000年3月までは副学長として、全学的な立場から大学運営に携わり、学生の教育・厚生面で活躍されました。その後も、2002年3月まで評議員として、学部内はもとより大学改革、教育研究条件の整備等で努力され、横浜国立大学の自由な伝統の維持発展に多大な貢献をされました。

以上のような松元先生の30年間に渡る教育研究，大学運営に関するご功績に対し，改めて感謝する次第です．今後も，日本経済史研究においてご活躍されると同時に，国立大学法人化後，荒波が予想される我々経済学部に対し，大所高所よりご指導いただくようお願い申し上げます．

2004年5月

経済学部長 長谷部 勇 一